

令和6年度使用

小学校用教科用図書研究資料

書 写

宮崎県教育委員会

Ⅰ 教科目標の達成及び単元（題材）の構成・配列等

〔観点Ⅰ〕 学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、構成・配列等について、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	<p>(1) 単元の構成に関しては、「見つけよう」「たしかめよう」「生かそう・ふり返ろう」の3段階の学習過程とされており、導入の「書写のかぎ」で学習のポイントを示し、特に重要な語句は色を変えるなど、学習のめあてを意識して取り組むことができるような工夫が見られる。</p> <p>(2) 単元の配列については、書写学習の基礎・基本的な単元を学習した後に言語活動「生活に広げよう」、文字文化に触れる「文字といっしょに」等を配置し、国語や他教科等に活用できるような工夫が見られる。</p>
17 教 出	<p>(1) 単元の構成に関しては、「つかむ・考える」「確かめる」「ふり返る」「生かす・広げる」の4段階の学習過程とされており、導入にためし書きを、終末にまとめ書きを書く欄を設けることで、学習のめあてを自分でふり返ることのできるような工夫が見られる。</p> <p>(2) 単元の配列については、単元の終末に言語活動「レッツ・トライ」や文字文化に触れる「知りたい文字の世界」「書いて伝え合おう」等を配置し、国語や他教科等に活用できるような工夫が見られる。</p>
38 光 村	<p>(1) 単元の構成に関しては、「考えよう」「確かめよう」「生かそう」の3段階の学習過程とされており、「たいせつ」で学習のポイントを具体的な説明やイラスト等で視覚的に示し、学習内容を自分で確かめることができるような工夫が見られる。</p> <p>(2) 単元の配列については、単元の終末に言語活動「書写広げたい」や文字文化に触れる「もっと知りたい」「手書きの力」等を配置し、国語や他教科等に活用できるような工夫が見られる。</p>

2 内容や指導の充実

[観点2] 主体的・対話的で深い学びを通して、目指すべき資質・能力を確実に身に付けさせるために、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	<p>(1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、各単元の導入「書写のかぎ」で身に付けさせる書写の能力を示し、「生活に広げよう」で、学習したことをどのように生かしたのかを話し合いにより振り返らせる工夫が見られる。</p> <p>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、文字を整えて書くための書写のポイントを指でなぞって考えさせ、次に毛筆で確かめ、最後に硬筆に生かし、さらに別の文字で練習するという関連させた指導の工夫が見られる。</p> <p>(3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、「生活に広げよう」において、絵日記や生活作文、ノートの書き方など国語と連動させた言語活動を示し、学習した書写の力を生かすことができるような工夫が見られる。</p>
17 教 出	<p>(1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、導入のためし書きや終末でのまとめ書きの比較をさせたり、「レッツ・トライ」において、どんな書き方をするか意見や感想を述べ合う活動を設定したりするなどの工夫が見られる。</p> <p>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、基礎基本となる運筆方法や字形の整え方を、平易な言葉で児童に投げかけ考えさせたり、説明や写真を活用したりしながら日常に生かせるような学習のポイントを分かりやすく示す工夫が見られる。</p> <p>(3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、「レッツ・トライ」において、メモの書き方やポスターづくり、はがきの書き方など他教科と関連させた言語活動を示し、学習した書写の力を生かすことができるような工夫が見られる。</p>

<p>38 光 村</p>	<p>(1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、導入で、整った文字を書くためのポイントを個人で考えたり、グループで話し合ったりする活動を取り入れた後に学習を進めることができるような工夫が見られる。</p> <p>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、学習の基礎基本となることを「たいせつ」で学んだ後に、実際に毛筆で書いて確かめ、最後に、学習したことを生かして硬筆で書かせることで、学習したことを日常生活に生かす工夫が見られる。</p> <p>(3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、「書写広げたい」において、メモの書き方や外国語カードづくり、パンフレットの書き方など他教科と関連させた言語活動を示し、学習した書写の力を生かすことができるような工夫が見られる。</p>
---------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3 利便性の向上

〔観点3〕 学習効果や使用上の利便性を高めるとともに児童にとって分かりやすいという視点から、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	<p>(1) 学習効果や使用上の利便性については、学習内容を系統的に分類・整理してインデックスに示したり、巻末で既習事項が一覧できるようにしたりすることで、児童がすぐに振り返り、学びの確認ができるような工夫が見られる。</p> <p>(2) 児童にとっての分かりやすさについては、色覚の多様性に配慮し、配色やデザインにおいて工夫が見られる。低学年では、点画の書き方の特徴を動物の動きと擬態語を使って表現する工夫が見られる。</p>
17 教 出	<p>(1) 学習効果や使用上の利便性については、基本の筆遣いを大きく朱墨写真で取り上げたり、学習のポイントを具体的に説明したりすることで、個の課題に応じて主体的に学習が進められるような工夫が見られる。</p> <p>(2) 児童にとっての分かりやすさについては、運筆方法や字形の整え方などの解説を加えた写真や図版の活用に工夫が見られる。低学年では、鉛筆の持ち方を段階的に写真で示したり、間違いやすい書き順を例示したりする工夫が見られる。</p>
38 光 村	<p>(1) 学習効果や使用上の利便性については、朱墨で筆順が分かるものや、学習の参考となる豊富な資料や硬筆欄を掲載することで、児童の関心・意欲に応じて学習に取り組むことができるような工夫が見られる。</p> <p>(2) 児童にとっての分かりやすさについては、色覚の多様性に配慮した色の組み合わせの工夫が見られる。低学年では、点画の書き方の特徴を動物の動きと擬態語や写真を使って表現する工夫が見られる。</p>

種目 書写

※ 表内の数値は、書写で設定した内容項目により全発行者について調査したものであり、数値の大小を表面的にとらえるのではなく、具体的な内容と合わせて各発行者の特徴をとらえる参考とすること。

視 点	発行者		2	17	38
			東 書	教 出	光 村
共 通	① 総ページ		5 3	5 3	4 9
	② 重さ	合本（グラム）	119.1	110.2	108.2
		別冊（グラム）			
	③ サイズ	縦（cm）×横（cm）	18.7×25.7	18.2×25.7	18.7×25.7
種 目 別	④ 言語活動の充実を生かした箇所		7	7	7